

令和4年度 家庭教育オピニオンリーダー研修⑤ 実施報告

実施日：令和4年10月26日（水）



○ 説明「家庭教育支援に向けた取組」

総合教育センター職員

まずは、本研修のこれまでの流れ（家庭教育の現状と課題を学ぶ・現在家庭教育や子育ての支援のために行われている取組の実際について知る・家庭教育や子育ての支援に生かすことのできる知識・技術を学ぶ）を再確認し、学んだ内容を整理しました。次に、自分たちに今後できそうな家庭教育や子育てを支援する取組を考える協議の、進め方を確認しました。また、受講者一人一人が、研修での学びと共に、自身の職歴や子育ての経験から得た見識と技術、日常生活で感じる現在の子育て家庭の課題、その解決に向けた思いなども整理した上で協議に臨むことや、実現の可能性の高い取組となるように工夫すること、といった協議のポイントが示されました。



○ グループ協議「家庭教育支援に向けた取組」

総合教育センター職員

このグループ協議は、研修全体のまとめとして位置づけられています。4人1グループで行われ、子育てや家庭教育の現状と課題を共有し、それらの解決を目指すためにどんな取組ができそうか、意見を出し合いながら

案を作成し、次回の研修最終日に発表する予定です。この日はどのグループも取組のタイトルやねらいなど、発表する案の概要を固めることを目標として協議を進めました。

協議は、個人用とグループ用の2種類のワークシートを活用して行いました。一人一人が自分の考えを個人用ワークシートに整理してから協議に臨んだことで、より焦点が絞られた話し合いとなりました。結果的には3つの班とも「つながりをつくる」という大きな目標の達成を目指すという点で一致していましたが、そのための取組の内容は三者三様で、各グループの個性が発揮されていました。

次回は案の細部についてさらに協議を進めながら発表に備えることとなります。どんな発表となるか、今から楽しみです。



※この日は上記の研修と共に、総合教育センター内の施設見学も実施しました。案内はセンターボランティアの会の馬場・奥村両氏によって行われ、受講者は研修修了後の活動に生かすことのできる機関やその機能・特徴について、説明を聞きました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・グループの皆さんはいろいろ考えていてアイデアも豊富で勉強になりました。相談が必要な人につながる必要だと思いました。
- ・小さなSOSを見逃さないようにするには、いろいろな場所に出向き、声を掛けることが必要だと協議の中で聞きました。相手の方のありのままを受け止めることができるとよいとのことで、新たな気づきでした。
- ・協議の際にグループの方の体験談から学ぶことができました。取組について考えることができたが、実践するとなると体制づくり等町の機関との連携が難しいと感じました。
- ・ディスカッションの時間が多く楽しかったです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp